

I 三位一体の神の先行的恵み

- ① 父なる（救いのご計画者）神の愛（私達に対して「わたしの目にあなたは高価で尊い。わたしは、あなたを愛している」と心から語り掛けて下さる。他の人と比べての価値ではなく、あなたの存在に価値がある。②子なる神（救いの成就者：私達の罪の為に十字架、死への勝利の復活）の恵み（罪の赦しと永遠の命）、③聖霊なる神（救いの適用者、私達の心に神の救いを届けて下さる）の交わり（私達の心に内住し、私達と交わり、罪を示し、十字架の意味を教え、主を信じる信仰を与え、悔い改めと慰めを与えて下さる）。④父・子・聖霊は、バラバラの神ではなく、一つ、一体のお方。

II 神の恵みへの応答：これまで伝道者、牧師、教師を主が教会に建てられた事を見て来た。その働きの目的は、主の体である教会に連なるすべての者を「完全な大人」にし、主の満ち満ちた身丈にまで達する為、みな「信仰の一致と神の御子に関する知識（完全な知識）の一致」に達する事にある事を見て来た。それは、私達の目標である。私達は、まだそこに達していない。目標を目ざす事と今の自分達の現実を認め励まし合う事が大切。

III まず第一に理解すべき事は、私たちは皆、信仰生活を霊的な子どもとして歩み出すという自覚。聖徒の歩みは、これまでの生活の延長ではなく、新しい生活。御聖霊により新生、新しい命を受け神の子として誕生し、子どもとして歩み出す。神により、一步一步、育てられ成長し霊的な大人に変えられて行く。感謝！信仰告白、洗礼は、ゴールではなく、始まり。子どもである私達がまず、すべきことは、学び、ふさわしい者とされて行く事、主と教会に仕える為に整えられる事。大人、子どもに関係なく、私達は、霊的な大人に成長する途上の霊的な子どもという自覚が大切。

IV 私達が霊的な子どもである時の特徴。①不安定さ。「もてあそばれたりする（この原語は、揺れるとも訳せる）」：14。時に激しく、かき回される。すべてを支配し、いつも安定されている主に頼り頼みたい。②きまぐれ、気持ちが変わり易い。笑ったかと思うと、すぐに泣き出す。気持ちが目まぐるしく変わる。主の愛は、きまぐれではなく変わる事がない。③一瞬のうちに極端から極端に変わる。霊的な大人は、落ち着いて、まず主に御心を祈り求める。④自制できず、そのまま表に出す。欲しいものがあれば、自制できず、すぐに手に入れたがる。そうならないと、怒り不機嫌になる。自分に起こる出来事に対して、自分の反応や応答を制御できない。極端さがあり、好きか嫌いかのどちらか。中間がない。極端に右に振れたらと思うと、今度は反対に振れる。※個人も、世界の国々の判断も。聖書は、鏡のように、私達人間の子どもの姿を映し出す。私達は、自分達に起こった出来事に、過剰に反応しないように祈りたい。御霊の実である自制をいただき、主と共に落ち着いて反応できるように祈る。⑤ものの見方が極端で、極端から極端に見方を変え易い。ひとりよがり。独善的に考える。他人への配慮が足りない。視野が狭い。※証し。近視眼的、目の前の事だけを考え、後の事を考えない。神の視点で、物事を見、捉えるように祈る。⑥絶えず混乱を巻き起こし、精神的に引っかき回す。小さな事で怒り、わっとひとかたまりになり、一斉にしゃべりまくる。わけのわからない状態になる。主からの冷静さを祈り求める。⑦一歩、引き下がる、一呼吸を置くという余裕がない。一呼吸を置き祈り、引き下がる時と踏み出すべき時を祈り求める。※これらを他人事ではなく、自分の中にある霊的な子どもの姿と認め、へりくだり、霊的な大人に成長できるように祈る人は幸い！⑧間違った方向に引っ張られ易く、惑わされ、だまされ易い。※証し。祈りの必要。主に立ち戻った青年。主を信じる人は、考え方に置いて盲目になるのではなく、物事を正しく判断、識別できる主からの力を与えられる。「人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり」：

14。「あらゆる方向に吹き回される」とも訳せる。言われた事を素直に信じやすい。※良い面でもあるが、危険があり、やはり識別力が必要。相手が願う者すべてを識別せずに与えるのは真の愛ではない。主を信じる人に主は、物事を正しく判断、識別できる力を与えて下さる。「人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり」：14。「あらゆる方向に吹き回される」⑨正しい知識、判断の基準を持っていない。ものの吟味や評価が出来にくい。※子どもが小さい時から、聖書から物事を判断、吟味できるように、御言葉の種を心に蒔いておくことは大切。決して無駄にならない。いつか芽を出す。⑨教えられたり訓練を受ける事を好まない。気が短く、いつもせっかちに欲しがる。時間をかけ、一つ一つの段階、練習の積み重ねを好まず、すぐに結果だけを求める。すぐに結果を求めないで、祈りつつなすべき事の積み重ねの中で主の時に結果を与えられるように祈る。⑩継続より、目新しさ、変化、新しいものを好む。良い面もあるがバランスが大切。これまでの良い所を残しつつ、新しいものも取り入れていくバランスを祈り求める。

V 間違った「教えの風」：14。①十字架で罪の赦しと神の受け入れられる義を完成された主を信じる事により救われるという聖書的な教えではなく、行いや割礼、儀式を受ける事による救いという間違った教え。②キリストは、神ではなく、神に造られた被造物という間違った教え。正しい教えは、キリストは、神ご自身。③聖霊は、神ではなく、力、エネルギーであるという間違った教え。正しい教えは、御聖霊は、力を持った人格を持っておられる交わりの神。④聖書は、事実を記しておらず、神話であるという間違った教え。正しい教えは、聖書は、神の靈感（神の息吹を受けている、聖霊による）によるもので、真の知恵、救いを与え、教えと戒めと矯正と義の訓練との為に有益な誤りのない神の御言葉。

VI「私たちはもはや、子どもではなく、人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出た、どんな教えの風にも、吹き回されたり、もてあそばれたりすることが」なく、霊的な大人に成長できるように神の励ましの御言葉。自分もまだ霊的な子どもという自覚、謙遜が大切。

1. 「考え方において子どもになってはいけません。悪事においては幼子でありなさい。けれども、考え方においては大人になりなさい」Ⅰコリント14：20。

2. 66巻の聖書全体を読み味わう。「すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救い（義認・聖化）を得るためです」Ⅰペテロ2：2。「みことばは、あなたがたを育成し」使徒20：32。毎日、真理の御言葉を読み味わいたい。間違った教えに聖霊と御言葉は気づかせて下さる！

3. 教会員に祈られ支えられ、主が立てられた牧師、説教者の礼拝の御言葉で養われる。「聖書の朗読と勧めと教えとに専念しなさい」（パウロからテモテへ）Ⅰテモテ4：13。神は、祈られ、良く準備された礼拝説教を用いて教会を大人へと成長させられる。

4. ①礼拝②ディボーション③互いに主を間に置き、交わり、御言葉を分かち合い、感謝と祈りの課題を分かち合い祈り合う事を通して、霊的なぶどうの木である主にとどまる、繋がる。その時、キリストからの栄養（神に近づく聖さ、暖かい愛）が、私達の心に流れてくる。「人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実（人々の救い、霊的成長、愛、喜び、平安、寛容、誠実、柔和、自制）を結びます」ヨハネ15：5。霊的な子どもから霊的な大人になれますように！